

## 戦時期日本は大東亜共栄圏の女性たちに 何を期待したか

——対外グラフ誌『フジンアジア』の内容分析から——

加納 寛

### はじめに

「大東亜」戦争期の日本が、大東亜共栄圏の人々に対して、様々な手段を駆使して日本の影響力を高めるプロパガンダを積極的に展開し<sup>(1)</sup>、その一環として数多くの対外グラフ誌が刊行されていたことは、これまでの研究によってよく知られている。たとえば、1934年に名取洋之助を中心とした日本工房（後の国際報道工芸）によって創刊され国際文化振興会等の援助を得ながら1944年まで刊行されていた『NIPPON』や、陸軍参謀本部傘下の東方社によって1942年に創刊された『FRONT』は、メディア史研究者による研究のほか<sup>(2)</sup>、とくに土門拳や木村伊兵衛といった写真家の関与によって写真史研究者の関心をも強くひき、多くの研究が蓄積されているし<sup>(3)</sup>、『SAKURA』や『太陽』といった新聞社発行の対外グラフ誌については、井上祐子による概括的研究もまとめられている（井上 2009）。そのような対外グラフ誌のなかで、とくにタイ向けグラフ誌『カウパアプ・タウンオーク』の記事内容や商業広告を分析した加納の研究によれば、その訴求対象として女性が重視されていたことが明らかになってきている（加納 2016、2021）。

訴求対象として女性を重視する方向性が、タイ向けのみにとどまらず、

(1) 最近では、貴志（2022）が近代日本のプロパガンダの流れを概括的に示しているし、大塚（2022）は大東亜共栄圏に向けて様々なメディアを展開したメディアミックスが「文化工作」として仕掛けられていたことを描き出している。

(2) たとえば、難波（1998）、川崎（2000）、森岡（2012）などが挙げられる。

(3) 白山・堀（2006）、白山（2014）など。なお、『NIPPON』と『FRONT』については、復刻版も刊行されている。

大東亜共栄圏全体向けに対しても見られることは、日本による大東亜共栄圏多言語並列の対外グラフ誌の一種として、女性のみを訴求対象とした『フジンアジア』という雑誌が存在することからも明らかである。『フジンアジア』は、大阪毎日新聞・東京日日新聞によって1942年9月に創刊されたグラフ誌であり、1944年3月発行の14号までの存在が確認できる。しかし、『フジンアジア』は、これまで国会図書館を含む図書館における所蔵がほとんど見られず、そのためにその存在が知られていなかったためか、先行研究ではほとんど扱われてこなかった。このたび、愛知大学図書館では、『フジンアジア』全号を入手し所蔵することになった。

本稿は、大東亜共栄圏女性向けの多言語並列グラフ誌『フジンアジア』の内容分析を通じて、当時の日本が、どのような女性像を大東亜共栄圏に発信していたかを観察しようとするものである。

## 1. 『フジンアジア』の書誌情報

まずは、『フジンアジア』の書誌情報を確認しておきたい。

『フジンアジア』は、大阪毎日新聞社と東京日日新聞社によって、1942年7月に創刊された。1943年1月発行の通巻3号（2巻2号。以下、巻号は通巻で示す。）から、大阪毎日新聞社と東京毎日新聞社の発行となる。毎日新聞社においては、1942年に『ホームライフ海外版』を南方向けに変更し『SAKURA』と改名した、英語・フランス語・中国語・日本語の多言語B4判のグラフ誌も展開している<sup>(4)</sup>。

『フジンアジア』は、当初は隔月刊であったが、1943年7月発行の6号より月刊となった。通巻6号の目次ページには、次のような記載がある。

TO THE READER From The Editor:

Due to its overwhelming popularity, FUJIN ASIA, hitherto a bimonthly magazine, will be published monthly beginning with this issue.

タイ国立公文書館所蔵のタイ政府宣伝局文書によれば、日本のグラフ誌は現地の人々にも大いに浸透したようであるので（加納 2013）、「圧倒的

---

(4) 『SAKURA』は、基本的には月刊の60ページ前後の冊子で、60銭で販売されていた（井上 2009：217-219）。

な人気」とあるのは誇張ではないかもしれない。

最終号としては、1944年3月発行の14号までの存在が確認できる。

誌面は、B4版のグラフ誌である。1943年7月発行の6号までは表紙や裏表紙も含めて24ページ、同年8月発行の7号以降は28ページとなった。

表紙は、日本語で大きく「フジンアジア」と誌名が記載されているほか、英語、フランス語、中国語、タイ語、マレー語が併記されている（図1参照）。記事は、大東亜共栄圏内の各言語として、日本語、英語、フランス語、中国語、タイ語、マレー語が併記されているが、目次は英語のみで記載されている。1942年創刊当初の『FRONT』のようなビルマ語やモンゴル語を含む14言語展開や、同じく1942年創刊当初の朝日新聞社『太陽』のようなビルマ語などを含む7言語展開に比べると、言語数は絞られており、とくにビルマ語には対応していない<sup>(5)</sup>。

価格については、日本国内定価としては1部につき30銭、送料は8銭である。1年の定期購読の場合、隔月刊の時期には1円80銭、送料は48銭なので、定期購読の割引はとくに設定されていない。

定期予約所としては、上海の毎日新聞社分館のほか、満洲国・中国の毎日新聞社代理店と、ハノイ、サイゴン、バンコクの各支局が挙げられている。大東亜共栄圏全体を考えると、上述の言語展開を含め、フィリピンや蘭印、マレー半島、シンガポール、ビルマといった地域の読者に関しては訴求力が弱かった可能性があるが、フィリピンやビルマ、マレー半島、蘭印に対しては主に朝日新聞社が『太陽』による宣伝を展開していたようである（井上 2009 : 220）。

## 2. 『フジンアジア』の表紙

『フジンアジア』の表紙は、全て絵画が使われている。同時期に日本が発行していた他の対外グラフ誌においては表紙に写真が使用されていることが多いのに対して、特徴的である。画家は、全て日本人男性であり、著名な画家も含まれている。

---

(5) ただし、『FRONT』も『太陽』も、次第に対応言語数は減少していき、『太陽』の場合は結局マレー語、日本語、中国語、英語の4言語展開となる。



図1 『フジンアジア』1～4号表紙

表1 『フジンアジア』各号表紙

通巻	発行年月日	主題	画家	地域	人物	服装・主題
1	1942/9/1	日本女性洋装姿	木下孝則	日本	女性	洋装
2	1942/11/1	日本女性着物姿	n.d.	日本	女性	着物
3	1943/1/1	南洋?台湾? 女性民俗服	小磯良平	大東亜	女性	南方民俗服
4	1943/3/1	南方?女兒	宮本三郎	大東亜	女兒	南方民俗服
5	1943/5/1	日本女性着物姿	小磯良平	日本	女性	着物
6	1943/7/1	日本女性洋装姿	小磯良平	日本?	女性	洋装
7	1943/8/1	日本女兒洋装姿 (音楽演奏)	上田珪草?	日本	女兒	洋装・音楽
8	1943/9/1	日本赤十字看護婦	Kamesaburo Kido	日本	女性	看護婦
9	1943/10/1	日本女性洋装姿	Kosaku Kinoshita	日本	女性	洋装
10	1943/11/1	日本女性洋装姿	Koki Kondo	日本	女性	洋装
11	1943/12/1	日本女性着物姿	田村孝之介	日本	女性	着物
12	1944/1/1	日本女性着物姿	山川秀峰	日本	女性	着物
13	1944/2/1	日本女性洋装姿	山口蓬春	日本	女性	洋装
14	1944/3/1	日本女性着物姿	伊東深水	日本	女性	着物

出所：『フジンアジア』各号の表紙と目次に記載された情報より作成

表紙の内容を整理すると、表1のとおりになる。画題は、全て女性であり、胸像が描かれていることが多い。通巻3号において台湾か南洋の民俗服飾を着装した女性が描かれ、4号において洋服を着装した女兒が描かれているのを除けば、その他は全て日本女性であると思われる<sup>(6)</sup>。着装については、和装と洋装は同程度の出現率である。タイ向け対外グラフ誌『カウパップ・タウンオーク』の表紙の場合には、和装女性が登場することは

(6) 通巻2号の裏表紙には、旗袍を着装した2人の中国女性像が描かれているが、これは「在華日本紡績同業会」の広告である。

なかったことを考えると、着物を着装した女性が表紙に登場することも『フジンアジア』の一つの特徴として捉えられるかもしれない。

表紙からみると、刊行の初期にあたる3号から4号にかけての1943年初頭に方針の揺れがあることを除けば、日本女性の姿を大東亜共栄圏の女性に向けて宣伝しようとした意図があるように見える。

### 3. 『フジンアジア』の記事内容

『フジンアジア』の記事内容については、表2のとおりである。これを、登場人物に着目して整理すると、表3のとおりになる。

登場人物としては、日本人女性の比率が高く、ページ数ベースで全体の29.3%を占める。これは、『フジンアジア』が、第一義的には大東亜共栄圏の女性に向けて日本女性の姿を発信しようとしていることを意味している。扱われている女性像としては、看護師や、軍部隊や軍需工場において勤労する女性が多い（ページ数ベースで全体の12.4%）。この点、上野や若桑などによって指摘されてきたように、戦時の女性政策において「子どもを兵士としてオクニに捧げるといふ母性をつうじての国策協力だけでなく、砲弾や航空機を作るという男性的な職域に進出するという戦争協力に至るまで、女性を伝統的な家庭領域から引っ張り出すことをアピール」し（上野 2009：235-236）、「母性の管理」とともに「労働力の管理」を指向したという方向性が（若桑 2000：91）、『フジンアジア』の記事構成にも反映されていると言えよう。なお、若桑は、「労働力の管理」について、「補助的軍事力（兵隊、軍属その他の軍事要員）」、「補助的軍事労働力（軍需産業）」、「従軍看護婦」、「家庭内労働（男の働き手がいなくなったあとの労働および戦時生活）」の4項目に整理しているが（若桑 2000：91-92）、このほとんどが『フジンアジア』の記事にも見られる<sup>(7)</sup>。

---

(7) 若桑のいう「家庭内労働」については、男性の代替労働力と理解するならば、14号に登場するような「ニッポン ノ フジン グワカ」（日本の婦人画家）というような内容も含まれるだろう。なお、この記事に扱われている、女性画家たちの共同制作『大東亜戦皇国婦女皆働之図』については、吉良（2013、2015）に詳しい。

表2 『フジンアジア』各号記事一覧

通号	発行年月日	記事	ページ数
1	1942/9/1	Children Today: the Nation's Leaders Tomorrow	8
		Drawings and Song for New Friends	4
		A Sky-Conscious Nation	2
		Dancing in the South	2
		The Reawakening of the Women of Asia	2
		(日本語コーナー等)	1
2	1942/11/1	High School Girls of Nippon	7
		Toys	5
		Boating	2
		Setsuko Hara's Expressions	2
		Brides' School in Batavia	2
		(姉妹誌 SAKURA 宣伝、日本語コーナー等)	1
3	1943/1/1	Air Travel	8
		Costumes in the Great East Asia Co-prosperity Sphere	4
		Skiing	2
		An Unusual School in Peking	2
		"Jan-ken-pon" "mekakushi oni"	2
		ラジオタイソノウタ (日本語コーナー)	1
4	1943/3/1	The Joy of Working	8
		ゾーサンノニッポンケンブツ	4
		At a Malai Primary School	2
		Simple Beauty Treatment	1
		Ironing	1
		Correct Dimensions for the Nippon Flag	1
5	1943/5/1	Letter by the Mother of a Young Naval Flier	2
		アカチャン バンザイ (日本語コーナー)	1
		Physical Culture for Women	5
		Scientific Study of Rice	3
		From Friends in the Co-Prosperity Sphere	4
		An Evening of Southern Music	2
6	1943/7/1	Growing Cotton in the Philippines	2
		Study of the Japanese Language (教室)	2
		Impressions by the 'Mother of Burma'	1
		Electrification of the Home	8
		The 4 Seasons in Nippon and Children	4
		Bataan Peninsula's Reconstruction	2
7	1943/8/1	Students of the Nippon Language	2
		Study of the Japanese Language (買い物)	2
		"Thank You for Model Planes" Says Ba Maw's Son	1
		Music Education for Children	8
		Nippon Dwelling-Houses	4
		Concert by 50,000	2
8	1943/9/1	Djakarta Girls' Schools	2
		Study of the Nippon Language	2
		Tea Party Held for Students from Southern Lands by the Catholic Women's Society	1
		Nippon Red Cross	8
		The Little Squirrel	2
		Moonlit Night	2
8	1943/9/1	Sunset Glow	2
		Schools in Celebes and New Guinea	2
		From Southern Students in Nippon to their Mothers at Home	2
		Study of Nippon Language	2
		Nippon Actress Hideko Takamine, at Home	1

戦時期日本は大東亜共栄圏の女性たちに何を期待したか

通号	発行年月日	記事	ページ数
9	1943/10/1	Physical Training for Young Working Women	7
		Culled from the News (南方からの日本留学)	1
		God's Warriors	6
		Rhythm	2
		Shonan Medical University	2
		Study of Nippon Language (乗り物、旅行)	2
		Unique Magazines for EastAsiatics	1
10	1943/11/1	Women and Gliders	8
		Art Links Nippon and French Indo-China	3
		Nippon as Seen by a Thai Artist	3
		Diligently Studying Young People from the Southern Regions	2
		Culled from the News	2
		Study of the Nippon Language (タチアガル ミナミノコドモ)	2
		ゲンキ デ オヨギマセウ	1
11	1943/12/1	Women and Air Defense	5
		Chinese Girl Students	3
		Asia Awakens	6
		Military Training for Indian Women	2
		Culled from the News	2
		Study of the Nippon Language (アイサツ)	2
12	1944/1/1	America, the Liar	1
		National Primary Schools of Nippon	8
		Verses and Drawings (East Asia's Children by Hakushu Kitahara & Tadaichi Hayashi)	6
		Greater East Asia Day in the Philippines	2
		Culled from the News (One Billion Hearts that Beat as One)	2
		Study of the Nippon Language	2
13	1944/2/1	Thai Beauty Contest/ Rubber Balls from Friends in the South	1
		Heroines of the War of Electric Waves	5
		Celebration Concerts for Burmese and Philippine Independence	3
		Greater East Asia in Drawings	6
		Celebes Salt Fields	2
		Culled from the News (インド国民軍女性将校)	2
		Study of the Nippon Language (写真帳)	2
14	1944/3/1	Rising Shonan City	1
		Sea Scouts	5
		At Work on a Mural Painting	3
		Cartoons	6
		The Joy of Harvest	2
		Culled from the News (戦果、ラマ僧)	4
		Sacred War Commented on by High Lama Priests	2
		Study of the Nippon Language (お断りとお詫び)	2
スキー	1		

出所：『フジアジア』各号の目次と各記事より作成。( )内は筆者加筆。

表3 『フジアジア』記事において登場する人物（単位：ページ数）

通巻	発行年月日	日本								大連圏										総計									
		勤労女性				女性				拒辯者との類 その親 族・歴史 的人物	女性				子ども (男女)	学生	音楽家	人びと 一般	動物 その他										
		看護婦	勤労	女優・舞 師・画 家・美容 家・ス ポーツ	母親	女子 生徒	女子 生徒	子ども (男女)	軍人 (兵士)		来日中の 留学生・ 子ども・ 芸術家	動物 その他	計	女性 軍人							政治 集会	民俗 服飾	民俗	コン テスト	美人	女子 生徒			
1	1942/9/1			2				14			1							2						2	19				
2	1942/11/1			2		9		5				1						2							2	19			
3	1943/1/1							3	8			2	13				4							2	6	19			
4	1943/3/1		8	1	2				1			4	2	18										2	2	20			
5	1943/5/1					5	2						7						4	2	2				3	12	19		
6	1943/7/1		2					4	8				14											4		5	19		
7	1943/8/1					2	2	8			1	4	17													2	19		
8	1943/9/1	8		1			2	4			2	2	19														2	21	
9	1943/10/1			7	2						1	2	12							2						6	9	21	
10	1943/11/1										8	2	19														2	21	
11	1943/12/1			5						2		9							2							6	1	12	21
12	1944/1/1							2	8				10							2						2		11	21
13	1944/2/1			5			2						7							2						6		14	21
14	1944/3/1									5	4		1	14														9	23
	計	8	27	12	2	24	10	52	17	6	15	5	15	193	8	4	2	10	1	7	17	2	2	34	1	3	90	283	
	%	2.8	9.5	4.2	0.7	8.5	3.5	18.4	6.0	2.1	5.3	1.8	5.3	68.2	2.8	1.4	0.7	3.5	0.2	2.5	5.8	0.7	0.7	12.0	0.4	1.1	31.8	100.0	

\* 『フジアジア』各号の記事において人物が扱われている場を計数して作成した。日本語学習コーナーやニュースのページについても、当該場面に登場する人物によって分類している。



『フジンアジア』においては、日本の女子学童や生徒が登場する比率も高い。日本の女子教育を、大東亜共栄圏の女性に向けて宣伝しようという意図があったと考えられる。

同時期の『主婦之友』において頻出する日本の「軍国の母」については、『フジンアジア』には中心的に扱った記事は少ない。1943年3月発行の4号に登場する「若き海軍飛行兵の母の手紙」が<sup>(8)</sup>、この1回のみ掲載されているのみである。

『フジンアジア』においては、日本の幼い子ども関係の記事が非常に多く全体の18.4%を占めることから、幼い子供をもつ若い母親を主な訴求対象としていたことが伺えるが、「軍国の母」のような母親像は求められていなかったといえる。

また、『主婦之友』において「傷痍軍人の妻」などとして頻出する「妻」としての日本女性の情報も、『フジンアジア』においてはきわめて少ない。むしろ、『フジンアジア』の誌面においては、夫の存在自体がきわめて希薄である。夫らしき人物が記事において登場するのは、3号と6号の日本の家庭の情景写真に限定されており<sup>(9)</sup>、母・主婦としての女性の写真に比して夫が登場する写真は少数で影が薄い。

若桑は、『主婦之友』などの雑誌に現れた図像を分析し、視覚化された戦時中の女性イメージを、「子を生み育てる母」、「補助労働力」、「戦争を応援するチャリーダー」の3つの役割に注目しながら、①母子像、②家族像、③勤労女性像、④従軍看護婦像、⑤皇室（皇后）像の5類型にまとめ

---

(8) この記事の内容は、簡単な日本語の紹介文を除けば、英語のみで2ページにわたって掲載されている。43歳の母親が、予科練に入隊した息子アキラに対して、家のことは忘れて強く勇敢な武人になるように諭した、血で署名した手紙と、その背景情報となっている。

(9) 3号では旅客機による家族旅行が、6号では電化した近代的家庭の様子が、それぞれ扱われている。相当に裕福な家庭の情景であるといえる。このほか、夫らしき人物が登場するのは、1号の「愛育研究会」に関する8ページに及ぶ記事の最後の写真に父・母・幼児の3人が歩む後ろ姿が掲載されている場面や、4号においてラングーンで大東亜戦争勃発後はじめて生まれた日本の男児を紹介する「アカチャン バンザイ」という記事に付された写真の左側に新生児を抱いた看護師に対置するように立っている姿であり、夫の姿はきわめて副次的に登場するに過ぎない。

ているが(若桑 2000 : 245-246)<sup>(10)</sup>、これと比較するならば、『フジンアジア』においては、②家族像が希薄であり、さらに⑤皇室像については全く現れてこないことが指摘できる。その一方で、若桑に指摘されていない要素としては、美容家や女優、舞踊家といった女性への注目が挙げられる。美容や服装への関心は、4号の「Simple Beauty Treatment」や、11号の「婦人と防空」などに現れている(図2参照)。

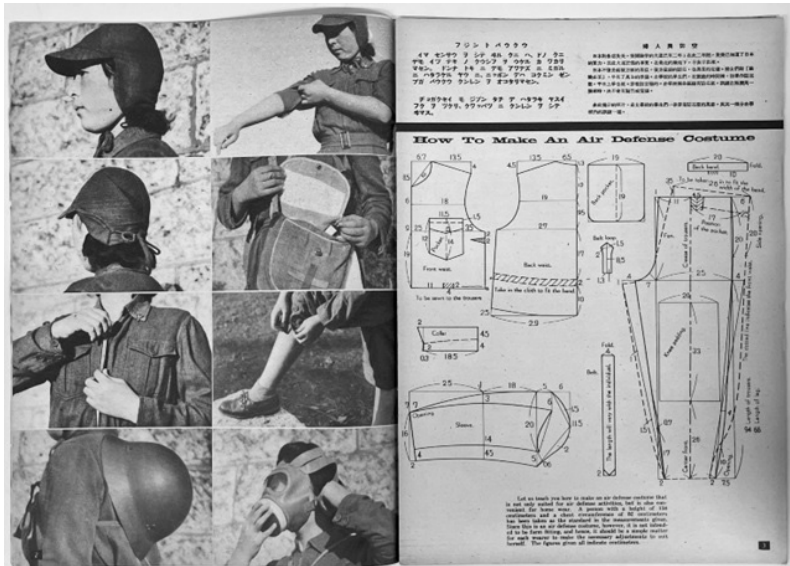


図2 『フジンアジア』第11号 pp.2-3 「婦人と防空」

大東亜共栄圏の女性については、個人としては、バ・モウの妻などといった共栄圏内の政治指導者の親族や、インド国民軍のラクシュミ大尉といった女性軍人が扱われることが多い(図3参照)。日本以外の地域に言及している44件の記事が扱っている内容を地域別に分類すると(図4参

(10) なお、若桑は、1936年から1945年までの『主婦之友』の記事の特色を、①母性賛美、②家族制度の擁護、③家事、家政の知恵、④皇室崇拝、⑤時局への関心、⑥戦争応援、⑦性的記事の7点にまとめている(若桑 2000 : 157)。これらは、視覚化された女性イメージとも重なることが多い。

照)<sup>(11)</sup>、中国や東南アジア、インド、南太平洋（ニューギニア付近）に満遍なく分布していることがわかり、本誌が特定の地域に重点を置かずに編集されていることが読み取れる。ただし、東南アジア地域を扱った記事が多いことから、中国よりも東南アジア地域に重点を置いているという見方はできるかもしれない。また、東南アジア地域においても、マレー半島の比率は小さい一方でフィリピンの比率がやや大きいということはいえる。個別の記事を見ていくと、1号では、バタビアで開催された「婦人大会」の様様やバンコクで開催されたインド独立大会における女性の様子が紹介されており、共栄圏内の政治的場面における女性の重要性を強調しているように見える。また、大東亜共栄圏各地の女子生徒や女子教育についての記事も複数回登場し、共栄圏各地の女子教育については一定の関心が向けられていることがわかる。

一方で、集合的表象としては、大東亜共栄圏の女性については民俗服飾をまとった姿で表わされることが多い。また、大東亜共栄圏の「人びと」一般として表象されることも多く、これは、日本女性が登場する場合に何らかの属性を持つことと対照的であると言えるかもしれない。

日本語学習コーナーについては、当時の大東亜共栄圏向け対外グラフ誌の通例で、各号に掲載されている（図3左下参照）。1943年7月発行の6号までは“Study of the Japanese Language”となっているが、翌月発行の7号からは“Study of the Nippon Language”と改められている。6号においては、日本語を学ぶ共栄圏の学習者を扱っている記事においては“Students of the Nippon Language”とされており、“the Japanese Language”と“the Nippon Language”が並立する形になっている。

---

(11) 「大東亜共栄圏」各地の話題が総体的に含まれている場合は「大東亜全体」に、同様に「南方圏」各地の話題が総体的に含まれている場合は「南方圏全体」に区分した。また、一つの記事に二つ以上の地域が含まれている場合は、各地域に計数したため、44件の記事ではあるが地域別分類は46件となっている。



図3 『フジンアジア』記事・広告例

左上：第11号 pp. 18-19 「インド婦人の軍事訓練」 右上：第12号 pp. 20-21 「十億の心は一つ」  
 左下：第11号 pp. 22-23 日本語学習 右下：第11号 pp. 16-17 薬品・化粧品広告

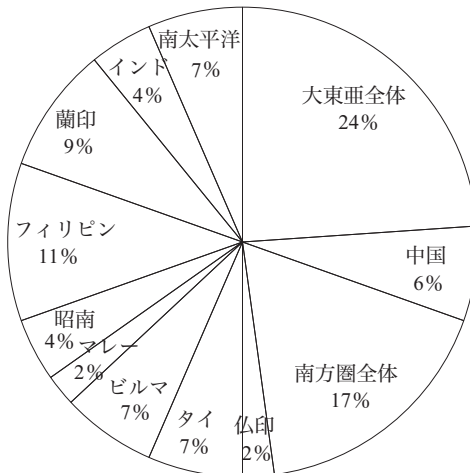


図4 記事等地域別分類

各記事が対象としている地域別に分類し（日本を除く）、各地域比率を表示した。

#### 4. 『フジンアジア』の商業広告内容

『フジンアジア』の商業広告は、6号まで全24ページのうち4ページ、7号からは全28ページのうち6ページを占めており、誌面全体の20%程度を占めている。特徴は、全ページを使用した大面積の広告ばかりであることである。そのため、掲載されている広告内容は、それほど多様性を持たない。この点、タイ向け対外グラフ誌『カウパップ・タワンオーク』では商業広告が総ページ数の40%ほどを占め、小面積の広告も多いため多様性が大きいことと比較して（加納 2016：23、加納2021）、異なった特徴をもっているといえる。

『フジンアジア』に掲載された商業広告の内容を整理すると、表4のとおりになる。

表4 『フジンアジア』各号掲載広告（単位：ページ数）

通巻	発行年月日	薬品	化粧品	繊維	製紙	その他製品	ホテル	放送	海運	計
1	1942/9/1		3				1			4
2	1942/11/1	2	1	1						4
3	1943/1/1	3	1							4
4	1943/3/1	4								4
5	1943/5/1	3	1							4
6	1943/7/1	4								4
7	1943/8/1	1	2		1	1		1		6
8	1943/9/1	4	1			1				6
9	1943/10/1	1	2	1	1				1	6
10	1943/11/1	3	1	1		1				6
11	1943/12/1	3	2			1				6
12	1944/1/1	5			1					6
13	1944/2/1	1	2	2		1				6
14	1944/3/1	3			1	2				6
計		37	16	5	4	7	1	1	1	72
%		51.4	22.2	6.9	5.6	9.7	1.4	1.4	1.4	100

出所：『フジンアジア』各号の各広告より作成

薬品・化粧品広告が多く半数以上を占めるのは、当時の日本国内雑誌の傾向と同じであるが<sup>(12)</sup>、『フジンアジア』においてはその比率が7割を超え、非常に高い。とくに1943年上半期までは、その傾向が強いといえる。特定の地域に限定されない広域の大東亜共栄圏の女性に対して、日本が経済的に売り込もうとしたのは、薬品と化粧品であったと見ることができるかもしれない。一方で、これは、広告面積が1ページ分に限定されているために、それ以外の業種の商業広告がそれだけの大面積を独占できるほどではなかったことによる相対的な結果であるのかもしれない

繊維製品などは、広告面積の14.2%を占めたタイ向けグラフ誌『カウパップ・タワンオーク』に比べ(加納 2021b: 161)、はるかに少ない。これは、特定のタイという地域に対する繊維製品売込の必要性に比べて、広域の大東亜共栄圏全体に対する繊維製品売込は魅力が低かったことを示している可能性がある。ただし、広告面積の相対的比率から見れば、やはり薬品・化粧品を主にしながら繊維製品に対する購買意欲も高めようとしていたと見てもよいであろう。

## 結び

以上、大東亜共栄圏の女性に向けて日本が刊行していたグラフ誌『フジンアジア』について、その内容の特徴を観察してきた。

『フジンアジア』は、記事内容から判断するに、とくに東南アジアを中心とした大東亜共栄圏の「南方圏」において、豪華グラフ誌や薬品・化粧品等を購買する経済的余裕を有する女性のうち、幼い子供を養育する母親から女学生にかけての年代層が訴求対象として想定されていたことが読み取れる。その目的については、表紙や記事内容の構成から考えるに、第一義的には、大東亜共栄圏の女性に向けて日本女性の姿を紹介するものであり、第二義的に大東亜共栄圏各地の女性像を相互に紹介するものであったと言えよう。大東亜共栄圏の女性たちに向けて紹介しようとした日本女性像は、とくに、日本の近代的で裕福な家庭の若い母親や勤労女性、女学生

---

(12) 加藤による1940年代初頭の「婦人雑誌」広告に関する研究によれば、薬品・化粧品広告件数は全広告件数の5～6割程度を占めたという(加藤 1995: 50-51)。

の姿であったと考えられる。その一方で、当時の日本国内の「婦人雑誌」に頻出するような「軍国の母」や「傷痍軍人の妻」といった女性像は、『フジンアジア』にはほとんど現れてこない。これは、日本が、大東亜共栄圏の女性たちに対しては、必ずしも「軍国の母」や「夫に献身する妻」のような役割を期待しておらず、看護師や軍需産業での働き手のような「労働力」や、幼い子供を養育する母性、そしてそれらの予備軍としての役割を期待していたためであろう。さらには、インド国民軍のラクシュミ大尉を称揚するように、枢軸国側において軍務に服する姿も期待していたと言えるだろう。また、日本国内のメディアには頻出してきている皇室像が『フジンアジア』においては現れてこないのも、日本の皇室に対する忠誠心のようなものは共栄圏の女性に対しては必ずしも求めていなかったことを反映しているように考えられる。それに対して、当時の日本国内向けの「婦人雑誌」では称揚対象としてはそれほど取り上げられない美容家や女優、舞踊家といった女性への注目は、商業広告と相まって美容や服装によって日本への関心を高めようとした工夫であると言えるだろう。

すなわち、大東亜共栄圏の女性に対して、日本の近代的な生活や美容・服装の紹介によって日本への関心を高め、日本製品への購買意欲を刺激するとともに、幼い子供を養育する母親や、看護師、軍需産業労働者、軍務従事者等としての姿を投影することにより、「母性の管理」と「労働力の管理」とに誘導していこうとする志向が、『フジンアジア』の誌面から浮かび上がっていると見ることができよう。

(付記) 本稿は、JSPS 科学研究費補助金、基盤研究 (C) 「戦時期タイにおける日本の宣伝機関の進出と活動：タイ・日・英語史料からのアプローチ」(課題番号 18K00975) の助成を受けた成果の一部です。史料閲覧につきましては、愛知大学図書館等のご協力をいただきました。なお、愛知大学所蔵の戦時期対外グラフ誌については、逐次「愛知大学貴重資料デジタルギャラリー」(<https://arcau.iri-project.org/>) に掲載されています。本稿の中心的な内容は、日本タイ学会 2022 年研究大会 (2022 年 7 月 9 日、愛知大学) において口頭発表したものをもとにしています。会場にて貴重なコメントをいただいた方々に御礼申し上げます。

## 参考文献

### (主要史料)

『フジンアジア』

### (参考文献)

土門拳 (1943) 「対外宣伝雑誌論」『日本評論』 18-9

疋田康行編 (1995) 『「南方共栄圏」：戦時日本の東南アジア経済支配』 多賀出版

井上治 (2005) 『『FRONT』モンゴル語版をめぐる』 江口真理子編 『戦時下、対東アジア戦略と広告宣伝』 研究成果報告書』 島根県立大学総合政策学部

井上祐子 (2009) 『戦時グラフ雑誌の宣伝戦：十五年戦争下の「日本」イメージ』 青弓社

石田あゆ (2015) 『戦時婦人雑誌の広告メディア論』 青弓社

加納寛 (2001) 「1942年日泰文化協定をめぐる文化交流と文化政策」『愛知大学国際問題研究所紀要』 115 (学術文献刊行会編2004 『日本史学・年次別論文集 近現代2 2001 (平成13) 年』 朋文出版に再録)

加納寛 (2009) 「戦時下日本による対タイ文化宣伝の一断面：『日泰文化』刊行をめぐる』 『中国21』 31

加納寛 (2012) 「1941年タイにおける服飾政策の展開と国民の反応」『名古屋大学東洋史研究報告』 36

加納寛 (2013) 「日本の宣伝活動に対するタイの対応：1942-43」『現代中国研究』 33

加納寛 (2014) 「戦時期バンコクにおける日本側活動の空間的特性」『日タイ言語文化研究』 2

加納寛 (2016) 「「大東亜」戦争期日本はタイに何をアピールしたかったのか：タイ語プロパガンダ誌『カウバアブ・タワンオーク』を中心に」『年報タイ研究』 16

加納寛 (2021a) 「戦時期日本の対タイ宣伝に関する研究の現状と課題」『新世紀人文学論究』 4

加納寛 (2021b) 「広告メディアとしての対外宣伝メディア：戦時期日本のタイ語プロパガンダ誌における商業広告」『Intelligence』 21

加藤敬子 (1995) 「婦人雑誌広告：昭和前期」『慶應義塾大学新聞研究所年報』 44

川崎賢子 (2000) 「戦時下対外宣伝における日本語と日本紹介：雑誌『FRONT』



とその周辺から』『昭和文学研究』41

- 木村涼子（2010）『〈主婦〉の誕生：婦人雑誌と女性たちの近代』吉川弘文館
- 近代女性文化史研究会（2001）『戦争と女性雑誌：1931年～1945年』ドメス出版
- 吉良智子（2013）『戦争と女性画家：もうひとつの近代「美術」』ブリュッケ
- 吉良智子（2015）『女性画家たちの戦争』平凡社
- 貴志俊彦（2022）『帝国日本のプロパガンダ：「戦争熱」を煽った宣伝と報道』中央公論新社
- 倉沢愛子（1992）「解題」『復刻版ジャワ・バル』龍溪書舎
- 桑原ヒサ子（2020）『ナチス機関誌「女性展望」を読む：女性表象、日常生活、戦時動員』青弓社
- 小林英夫（2012）『「大東亜共栄圏」と日本企業』評論社
- 森岡督行（2012）『BOOKS ON JAPAN 1931-1972：日本の対外宣伝グラフ誌』ビー・エヌ・エヌ新社
- 難波功士（1998）『「撃ちてしまむ」：太平洋戦争と広告の技術者たち』講談社
- 大塚英志（2022）『大東亜共栄圏のクールジャパン：「協働」する文化工作』集英社
- 王志松（2022）「「外地」の大衆文化：雑誌『女性満洲』に見られるファッション」劉建輝・石川肇編『戦時下の大衆文化：統制・拡張・東アジア』KADOKAWA
- 柴岡信一郎（2007）『報道写真と対外宣伝：15年戦争期の写真界』日本経済評論社
- 柴崎厚士（1999）『近代日本と国際文化交流：国際文化振興会の創設と展開』有信堂
- 重信幸彦（2019）『みんなで戦争：銃後美談と動員のフォークロア』青弓社
- 白山真理・堀宜雄（2006）『名取洋之助と日本工房 [1931-45]』岩波書店
- 白山真理（2014）『〈報道写真〉と戦争：1930-1960』吉川弘文館
- 鈴木邦夫（1995）「商社の南方進出」疋田康行編『「南方共栄圏」：戦時日本の東南アジア経済支配』多賀出版
- 鈴木貞美編（2011）『『Japan To-day』研究：戦時期『文芸春秋』の海外発信』国際日本文化研究センター
- 多川精一（2000）『戦争のグラフィズム：『FRONT』を創った人々』平凡社

- 太平洋戦争研究会 (2011) 『「写真週報」に見る戦時下の日本』 世界文化社
- 竹田光次 (1943) 「南方軍政下に於ける文教状況」 『国際文化』 25
- 寺見元恵 (1997) 「日常時の中の戦い：フィリピンにおける文化戦線」 倉沢愛子編 『東南アジア史のなかの日本占領』 早稲田大学出版部
- 津金澤聡廣・佐藤卓己編 (2003) 『広報・広告・プロパガンダ』 ミネルヴァ書房
- 上野千鶴子 (2009) 『家父長制と資本制：マルクス主義フェミニズムの地平』 岩波書店
- 上野千鶴子 (2012) 『ナショナリズムとジェンダー新版』 岩波書店
- 若桑みどり (2000) 『戦争がつくる女性像：第2次世界大戦下の日本女性動員の視覚的プロパガンダ』 筑摩書房
- 私たちの歴史を綴る会編 (1987) 『婦人雑誌からみた1930年代』 同時代社

Summary

## **Women in the Greater East Asia Sphere as a Market**

Seen in Japanese Wartime Propaganda Magazine “Fujin Asia”

KANO Hiroshi

Japan-published multi-language magazine, Fujin Asia, was launched in 1942 as one of the Japanese propaganda efforts for women in “the Greater East Asia Sphere”. This paper aims to show what images of women in “the Greater East Asia Sphere” were intended to create by Japanese propaganda. The observation of this magazine shows that wartime Japan expected women in “the Greater East Asia Sphere” to be good workers as nurses or munitions industrial workers and mothers, not “militaristic mothers” nor loyalists to the Japanese Emperor, but good consumers of Japanese products.